



2月20日発行
四年生連絡協議会

バリケード破壊を乗りこえて せらなる前進を

今や8ヶ月に及ぶ日大バリケード斗争を平いぬくかに於いて、古田居坐り理事会と、それに従する各学部教授会は国家権力と動員、右派体育会を使い公然とスト破壊を行なつて来た。

我学部に於いても2月10日に一方的にバリケードを撤去し、我々斗う学友の最後の砦としてつた文学部バリケードも、日大斗争をただ正統・消滅せんが為に、2月18日に800名の機動隊でもつて破壊撤去された。

この様な状況の中で他学部同様、我学部4年生にも12月23日にタイムリミットを打出し、各地に於いて疎開授業を強行して来たことは、バリケードの意義を空洞化し、学生の分断策動を行ない、斗争委員を孤立化させる以外の何物でもなく、又、その授業内容たるや大学の学問とはとてもかけはなれた誠意のない無内容なものであつた。

よつて我々は日大斗争を正統しようとする理事会、又取柄の疎開授業を強行した学部教授会を断固弾劾し、日大斗争の根本解決の努力をすべく、又正当なる大学教育を受ける為に留年することをここに宣言すると共に、多くの4年生の参加を呼びかける。又今後1〜3年生にかけられてくる問題であろう授業再開が日大斗争の根本解決せずして絶対にありえないんだという事を再確認する中で今後共に進歩して斗つて行くのではないか。

留年宣言

学部教授会はいかなる外部勢力に対しても学生と共に学園の自治を守らなくては行かないという基本的姿勢を保持しなければならないのに何等日大斗争を根本解決の努力せずして12月12日の確約書「授業再開を強行する機動隊等入による力の制圧に対して断固拒否する」を破りバリケードの意義を空洞化し学生を分断すべく疎開授業を提起しその上各地で権力に守られた疎開授業を強行した。その授業形態は一年間内容を2〜3週間を終らせるというダラダラ授業で四年生の小市民性を利用し更に自己矛盾に陥っている四年生には卒業も留年かを選ばせるとして手短かを用いて来た。たぐひでさえ学問の低下、マスプロ教育の被害等が叫ばれている現状にどかかわらずいたずらに学業進歩のみにはいる大学当局の力に我々は断固抗議し正当なる大学教育がなされる事を要求し我々はここに留年を宣言する。

農獣医学部四年生連絡協議会